

洗濯から仕上げまで ～ワイシャツを洗う～

1. 前処理



襟についた皮脂汚れは洗濯機に入れる前に前処理をしましょう。

やり方①

部分洗い剤



襟・袖用の部分洗い剤を直接塗ります

よくもみ込み、部分洗い剤を浸透させます

やり方②

超音波式シミ取り器



近頃は、ハンディタイプの電動シミ取り器が販売されています。なかでも超音波式がおすすめです。

試してみました！



部分洗い剤



超音波式シミ取り器



前処理なし



洗濯前の試験布

皮脂や泥などの汚れ成分で染めた試験布を前処理してから洗濯してみると、前処理をするほうが汚れ落ちが良い傾向でした。

2. 洗濯機に入れる前のポイント

洗濯中の絡み予防やシワつきを少なくするために、洗濯機に入れる前にちょっとした工夫を。



第1ボタン、ボタンダウンのボタンは外しておく。

これらのボタンが留まっていると襟の折り返し部分が洗濯中に擦れてしまうため

第2ボタンから3ヵ所ほど留める

3. 洗剤の入れ方

洗剤や柔軟剤は洗濯機の投入口に正しく入れましょう。



洗剤が「洗い」のときに洗濯槽内全体にいきわたります。

柔軟剤は2回目の「すすぎ」のときにでてくることで衣類に柔軟剤がつき、柔軟効果が発揮されます。

4. 洗濯機を運転する

5. 干し方

干し方に一工夫するだけで、シワを少なくでき、アイロンがけがラクに！



襟、カフスをパンと伸ばす



前立てを伸ばす



第1ボタンを留め、襟を整える

襟が型崩れしにくくなります

6. アイロンのかけ方

STEP 1 衿



表にシワが出ないように表をみて。
衿先から中心に向けて。

衿は折り返すので表と裏の生地面積が違います
(表のほうが大きい)。
表布のゆとり分を衿付け側にもっていくのがコツ。



衿先に向けてアイロンを
かけると、シワが衿先に
でき、見栄えがよくあり
ません。

STEP 2 ヨーク



衿をたてて、ヨーク全体を広げる



アイロン全面を使って衿ぐりから見頃方向へ

STEP 3 カフス



カフス外側から縫目にそって内側へ向ける

STEP 4 袖



縫目の線を決める

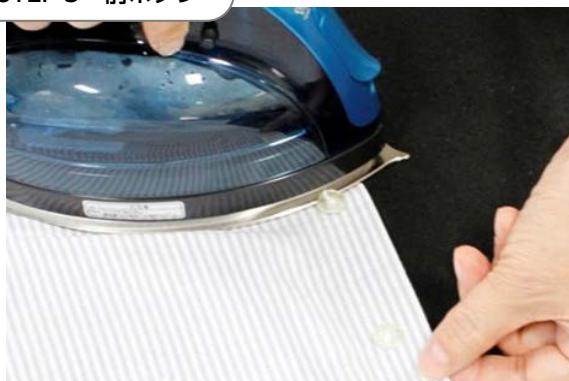


縫目にそってかける
(このとき肩まではかけないこと)



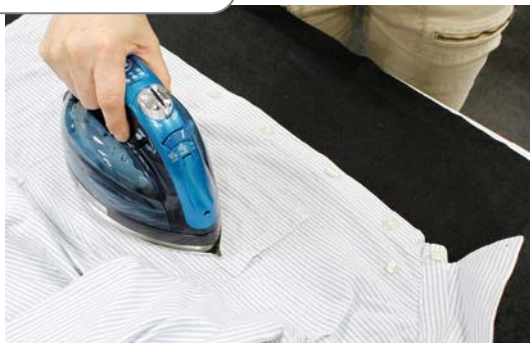
袖付け根の縫目にそってかける

STEP 5 前ボタン



ボタンの上からアイロンをかけないように
(金属のボタンなら裏から一気にかけてもOK)

STEP 6 見頃



ポケット部分にシワが入らないように



脇縫目にそってかける



見頃全体はアイロン全体で軽くかける



タック部分を決めて、しっかりかける

7. クローゼットへ



第1・2ボタン、ボタンダウンを留めて、ハンガーにかけると
衿がきちんとした状態でキープできます。